

3283200秒を貯金に

本日、夏休み前の集会を行いました。土日を含めて4月からの111日間で生徒が大きな事故や事件に遭うこともなく学習活動等に取り組めたことをありがとうございます。

今年の5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になった関係で昨年度よりも柔軟に体育大会、生徒会行事、中体連大会を実施することができました。おかげで、新しい環境で生徒たちは確実に成長しています。新しい日常での「Withコロナ」の生活が始まり、マスクの着脱についても個人の判断となりました。

しかし、最近の報道で感染者数の増加が懸念されていますので、夏休み中も的確な判断を生徒の皆さんはもちろん各家庭でよろしくお願いします。

ところで、明日7月21日から8月27日までの38日間は夏休みになります。これを秒に直してみると328万3200秒になります。この時間の使い道はみなさん次第です。自分でやることを決めて自主的に行動してください。

有意義な328万3200秒にするために、学校でいろいろな人から聞いた話や家族等の話などをしっかりと参考にして夏休みの計画表「コツコツが勝つ(成功する)コツ」を立ててください。

この夏休みに私がみなさんに期待していることは

- ① 工夫して体と心を鍛える。
- ② 学校の宿題+自分で決めた学習で“できる”を増やす。
- ③ 家族や地域から喜ばれることに挑戦する。



の3つです。そのための一番大事なことはみなさんの安全安心の確保です。事件や事故(SNSやスマホ等でのトラブル、交通事故、窃盗、水難事故等々)に遭わないように、また、起こさないように意識を高めて、楽しい夏休みにしてください。

県中体連夏季大会等に向けて

夏休みに入ってからすぐ始まる県中体連夏季大会及び吹奏楽コンクールに出場するバドミントン部、ソフトテニス部、陸上競技、卓球競技、水泳競技、吹奏楽部に関係する選手等の推戴式を7月13日(木)に行いました。生徒代表激励の言葉では、「三中代表として、荒玉代表として、最高のコンディションで、県大会やコンクールに挑戦してください。自分たちも県大会出場を目指しましたが郡市大会で負け、出場することが出来ません。あこがれの大会です。最高のパフォーマンスを発揮してください。私たち生徒、そして先生たちも荒尾の地から応援しています。」と話した後、「フー、フー、三中!」と全員で声を響かせました。これらに出場して経験を積むのも328万3200秒の一部ですね。頑張ってください。



一番言いたくない事が、一番分かってほしい事

7月13日(木)に
1年生の人権学習が

ありました。まず映像(写真)を見ました。集団宿泊学習の全体、各グループ、生活班、食事、レクレーション、研修等の笑顔の写真がとても素敵でした。その後、学年主任から「学校生活の中でその笑顔を奪うものがある。」という話があり、自分の苦い経験が話されました。それを受けて、ある生徒が自分の苦しかった小学校時代の話をしてくれました。その話を聞いた周りの1年生の皆さんが一生懸命に考えて、本人に温かい返しの言葉を言ってくれました。



私たちは「好きです三中」を合言葉にしていますが、近くにいる人の思いに共感出来ないなら、達成は難しいと思います。相手の思いに共感し、自分の思いを伝える。そんな学習を中学校では行っています。自分の生活や考えを綴り、語り、繋がる取り組みで共感的な学級、学年、学校を目指します。

ある生徒さんからは、「ドキドキして発表したけど、返しの言葉を聞いて嬉しかった。」という内容の話を聞きました。仲間と共に伸びていく1年生の今後が楽しみです。

「気づき、考え
行動する力」
を鍛えよう

第41回全国中学生人権作文コンテスト入賞作文 「気づきたい『笑顔』」神奈川県横浜市立旭北中学校3年生の作品

「〇〇菌だ！逃げろ！」一人の子に向かって言い、走り出すみんな。それが、小学校二年の頃のある日に始まった。私もみんなが言っていたし、言われている子も笑って「やめてよ〜。」と冗談混じりに言っているように聞こえたから一緒になって言った。それが始まって数日が経った朝、先生が「〇〇さんを菌扱いした人は自分から名乗り出で。」と言った。すごく怒っている様子だった。その瞬間心臓がバクンッと鳴り、教室でヒソヒソと話す声が次第に大きくなっていくのを感じた。数分経っても一人として名乗り出ることなく、痺れを切らした先生は一人ずつ名前を言っていた。呼ばれた子は「おい、お前もやってたぞ！」と他の子の名前を言い、徐々に言っていた人が明らかになっていった。

だが、私の名前は呼ばれなかった。ホッとした。だって、みんなと比べて私は一、二回しか言ったことがないから、私は同じにはならない。そうだ、そうに決まっていると思込もうとしていた時、「あれ、〇〇もやってたよね？」自分の名前が呼ばれた。頭からつま先まで冷え切っていくのを感じる。「え、私？」咄嗟に知らないふりをしてしまった。「あ、そうじゃん。言ってたよね。」という声が聞こえてくる。その声は多分小さくて、他の人には聞こえてなかったかも知れない。しかし、私の脳内にはその言葉が繰り返し聞こえ、嘘をついている苦しさが頭に打ちつけてくるように感じた。

言った人達が先生に怒られた後、その人達からこんな声が上がった。「なんで俺達が怒られなくちゃいけないの？」「だってあいつ笑ってたじゃんね。」「言われて嫌なら嫌って言えよ。」自分は悪くないと私達は壁を作っていた。そして、私も悪くないんだと勝手に解釈した。先生は、「今日あったこと、自分が何をしてしまったのかをちゃんと親御さんに伝えてください。」と言っていた。けれど、私は悪いことをしていないから話すこともないと言分に言い聞かせ、親には言わなかった。次の日の朝学活で先生が、「昨日のことをちゃんと親御さんに伝えた人は手を挙げてください。」と言った。次々に挙がる手。みんな挙げていくのを見て、私は汗が止まらなくなっていった。ここで挙げなければ私はみんなから白い目で見られる……。私は小さく手を挙げた。罪悪感で包まれてその日は一日中気持ちが沈んだ。

私は家に帰ったら自分がしてしまったことを親に伝えなければいけないのだと思った。でも、母にしっかり説明すればきっとそんなに怒られないだろう。大丈夫。そう思い込んで説明した。その途端、母の顔は青ざめていき悲しそうな声でこう言った。「相手は笑うしかできなかつたかもしれないでしょ。笑っていたとしてもその子は傷ついていたと思うよ。」今まで作ってきた壁が壊れたような気がした。母はその言葉を言った後、その子の家へすぐさま電話をして何度も謝っていた。母からの信頼を失ってしまったこと。変なあだ名をつけてからかかってしまったことの罪悪感で吐きそうになった。私もその子に謝罪することを決意した。謝ることで、その子の心の傷が治るわけでもないし、許されることではないと分かっていた。分かっていたけれど、私は謝ることしかできなかった。翌朝その子に謝りに行こうとした時、拒絶されるのが怖くて足がすくんだ。でも、私のこの恐怖よりその子はもっと怖かったのだらうと思出し、勇気を振りしぼって謝罪した。その子は「大丈夫だよ。」と優しい声で言い、私を拒絶なんてしなかった。その瞬間、全身についていた重りが外されたように感じた。ああ、なんてこの子は優しい人なのだろうと心から思った。

私はこの出来事を一度も忘れたことはない。変なあだ名でからかわれているときのあの子の笑顔。あの笑顔は上辺だけでは分らない気持ちがあったのだと思うと後悔が押しよせてくる。私はこの事があってから、誰か冗談でイジラれていたとしてもその子の顔色や傷ついているかを見て後から声をかけるようになった。そうするようになってから周りの子達から思いやりがあるとと言われるようにもなりたくさんの良い友達に囲まれている。私は、一生の後悔を胸に刻み、二度と同じことはしないし傷ついている人を助けようという気持ちを忘れず、今日を生きていこうと思う。